

群 教 セ	G01 - 02
	平18.234集

# 説明的な文章を根拠を考えながら 読む力をはぐくむ指導の工夫

— 「読みの『技』カード」づくりとその活用を通して —

特別研修員 橋本 公世 (千代田町立西小学校)

## 《研究の概要》

本研究は、説明的な文章を「読むこと」の学習において、「読みの『技』カード」を作成し活用することにより、根拠を考えながら読む力をはぐくもうとしたものである。「読みの『技』カード㊦」では、読み取った内容とともに根拠について友達と学び合いをし、それを用いて自分の力で読み取りを進めていく。「読みの『技』カード㊧」では、読み取りの根拠をまとめ直し、説明的な文章を根拠を考えながら読む力をはぐくんでいこうとした。

### ○ はじめに

本校の児童は、読む力が不足しているために、他の領域・教科でも力を発揮できないことが多い。「話すこと・聞くこと」の学習では、スピーチのためのメモを書いてもそれを満足に読むことができなかつたり、社会や算数、理科の学習では、文章で出された課題を正しく読み取ることができず、題意に沿って答えられなかつたりする。また、調べ学習で自分の課題に関係のある資料を見つけても、必要な情報だけを選び出すことができず、ただ丸写しにしていたり、課題に関係のない部分まで使おうとしたりしている。

「読むこと」の学習においても、国語の教科書に載っているなど、何度も読んできた文章は読み取れるが、初めて接する文章を読み取るとは苦手である。これは、文章のどこに着目して読み取ればいいのか、筆者はどのような述べ方をしているのかなど、読み取り方が身に付いていないためであると考えられる。

中学年の「C読むこと」では、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことの指導がなされてきた。しかし、説明的な文章の学習において、児童は、文章の内容を要約する、文章の構成をつかむ、段落の関係を理解するなど、文章をまとまりとして大きくとらえることの理解は不十分である。文章を細かい点に注意して読むことはおおむねできている。

小学校学習指導要領国語第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容のイには、「目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら

要旨をとらえること」とある。自分の読みの目的や筆者の意図などに応じて文章の内容を的確に押さえるためには、読み取る側が、文章のどこに着目すればよく、そこからどのように考えればいいのかを理解している必要がある。それにより、文章構成を理解した上での的確に要旨をとらえることができ、題意を正しくとらえて問題に答えたり、たくさんの資料の中から自分に必要な情報を読み取ったりすることができる。と考える。

そこで、本研究では、説明的な文章を、根拠を考えながら読む力をはぐくむために、「読みの『技』カード㊦、㊧」を作成・活用する学習活動を行う。「読みの『技』カード㊦」には、読み取る際に、文章のどこに着目し、どのように考えたのかという読み取りの根拠を書いていく。そして、自分なりに考えた読み取りの根拠を友達同士で教え合う活動を行う。これにより、自分もっていなかった考え方や、より目的や意図にあった読み取り方を知ることができる。自分が考えた根拠が友達の役に立つことで学び合う楽しさを味わうこともできる。

さらに、自分で考えたり友達と教え合ったりした根拠を用いて、自分の力で読み取りを進める活動を行うことで、根拠をもった的確に読み取る力が身に付くようにする。「読みの『技』カード㊧」には、学習を通して考えた読み取りの根拠をまとめ、根拠を考えながら読む力の定着を図る。

以上のことから、説明的な文章を「読むこと」の学習において「読みの『技』カード㊦、㊧」を作成し活用することが、説明的な文章を根拠を考えながら読む力をはぐくむ上で有効であると考え、本主題を設定した。

## I 研究の概要

### 1 基本的な考え方

#### 説明的な文章を根拠をもって読む力について

説明的な文章を根拠をもって読む力とは、文章の内容を読み取るとともに、文章のどこに着目し、どのように考えたのかという読み取りの根拠をもち、自分の読みの目的や筆者の意図などに応じて自分の力で読み取りを進めていくことのできる力であると考えます。それは、授業で扱った教材文の内容を理解することだけではなく、どのような文章に出会ったときでも自分に必要な情報を読み取ることができたり、書き手の意図を的確にとらえたりできるということであり、今後の学習活動や生活の中で、他の文章を読み取る際にも役立てることができるものであると考えます。

### 2 研究の内容及び方法

#### (1) 研究の内容

##### ① 研究の手立て

ア つかむ過程において、説明的な文章を根拠を考えながら読み取り、「読みの『技』カード 日」に書くことで、文章の内容を理解するとともに、説明的な文章を読み取るには、文章のどこに着目し、どのように考えればよいのか、明確にしながらかけるようにする。

イ 深める過程において、読み取りの根拠を友達と教え合うことで、考えを広げたり、より目的や意図に応じた読み取り方を知ったりすることができるようにし、また、見つけた根拠を用いて自分の力で読み取りを進めていくことで、根拠を明確にして説明的な文章を読み取ることへの理解を深めることができるようにする。

ウ まとめる過程において、これまでの学習で見つけた読み取りの根拠を整理して「読みの『技』カード 日」にまとめることで、文章の着目点や読み取りの際の考え方のポイントを身に付け、説明的な文章を根拠を考えながら読む力がはぐくまれるようにする。

##### ② 「読みの『技』カード」の作成について

「つかむ過程」では、「読みの『技』カード 日」を作成する。教材文から読み取った内容を一覧表

にまとめるとともに、「読みの『技』カード 日」に自分なりの読み取りの根拠を書いていく。根拠を明確にしながらかけることで、文章のどこに着目し、それをどのように考えればよいのか考えながらかけるようになる。それにより、自分の読みの目的や筆者の意図などに応じて的確に読み取ることができるようになる。

「まとめる過程」では、これまでの学習で見つけた読み取りの根拠について整理し、「読みの『技』カード 日」にまとめる。自分の読みの目的や筆者の意図などに応じて的確に読み取るためには、文章のどこに着目しそれをどのように考えたのか、もう一度確認し直すのである。それにより、説明的な文章を根拠を考えながらかける読む力をはぐくむことができる。

##### ③ 「読みの『技』カード」の活用について

「深める過程」では、4～5人のグループで、自分が考えた読み取りの根拠を教え合い、「読みの『技』カード 日」に書き足していく。友だちと学び合いをすることで、自分の考えに自信がもてたり、自分では考えなかった読み取りの根拠に気付いたりして、より目的や意図に応じた読み取りをすることができる。

また、友達と教え合う活動を設定することで、自分自身が新しい発見をしたり、自分が考えた読み取りの根拠が友達の役に立ったりするなど、学び合う楽しさを味わうことができ、読むことの学習に意欲的に取り組めるようになる。読み取りが苦手な児童にとっても、自分の力で課題を解決していける機会を増やしていくことになる。

児童同士の学び合いは、教える側の児童が、必要なことをうまく伝えられなかったり、教えすぎてしまったりするなど難しい面もある。しかし、読み取った内容ではなく、文章のどこに着目し、それをどのように考えたのかという読み取りの根拠を教え合うことで、教えてもらった側の児童もそれを生かして自分の力で読み取りを進めることができ、有効な学び合いができると考える。

さらに、「読みの『技』カード 日」を確認しながら、読み取りの根拠を用いて自分の力で読み取りを進める活動を設定する。そうすることにより、明確な根拠をもつことができれば、的確な読み取りをしやすくなることが実感できる。そして、文章のどこに着目し、どのように考えれば的確に読み取ることができるのかを確認することができ、根拠を明らかにして読み取ることへの理解を一層深めることができる。

## (2) 研究の方法

### ① 授業実践計画

対 象	邑楽郡千代田町立西小学校 5年3組 29名	実施期間	平成18年10月下旬（8時間）
題材名	「ニュース番組作りの現場から」（光村図書 5年）		

### ② 抽出児童

A (男)	説明的な文章を読むことに苦手意識をもっており、文章の中心となる語や文を捉えて要約することが身に付いていない。特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを根拠をもって読み取る学習を通して、文の中心を捉えるために着目すべき言葉について理解させていきたい。
B (女)	説明的な文章の学習が好きである。しかし、文章を意味のまとまりで大きくとらえることには苦手意識があるので、読み取りの際に根拠を明確にし、特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを自分の力で一覧表にまとめる学習を通して、文章構成を理解させていきたい。

### (3) 題材の考察と目標、評価規準

考 察	<p>本題材では、まず、ニュース番組制作の現場について書かれた文章を読み取り、ニュース番組制作の手順を知る。また、制作スタッフには工夫や願いがあることを知る。そして、それを知った上で、自分たちもテーマを決めてニュースを発信する。そのため、児童に読み取りの意欲や目的意識をもたせやすい上に、これらの活動を通して、視聴者として接するだけだったニュース番組を多面的に見ることができ、情報活用についての視野を広げていくことができる。また、本教材は、時間の流れに沿って、報道スタッフの役割やニュース番組制作の手順が分かりやすく整理されている。その点で、時系列に沿って大事な事柄に注意して読み取る文章として適している。ニュース番組制作の過程や報道スタッフの工夫や願いを表にまとめさせることで、どの段落にどんな内容が書かれているのかを的確に理解させたり、文章構成や要旨をとらえさせたりしていきたい。その際に、読み取りの根拠をしっかりと考えさせることで、説明的な文章の読み取り方にも気付かせていきたい。さらに、ニュース番組作りの過程で、ニュースを分かりやすく伝えるための工夫やニュースにかける報道スタッフの思いを読み取らせることで、テレビ画面には現れない部分を理解させ、新しい世界を知る喜びを味わわせたい。</p>		
目 標	<p>ニュース番組作りの過程と報道スタッフの工夫や願い、考えを、根拠を明確にしなが読み取り、要旨をとらえる。</p>		
評 価 規 準	<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>○文章のどこに着目してどのように考えたか、自分なりの根拠をもって読み取ろうとしている。</p>	<p>読 む 能 力</p> <p>○特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを、文章のどこに着目し、どのように考えたのかという根拠をもって読み取っている。</p> <p>○自分で見付けたり、友達と教え合ったりした読み取りの根拠を用いて、特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを表にまとめている。</p>	<p>言語についての知識・理解・技能</p> <p>○特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る際に、主語と述語の関係、文末表現などに着目している。</p>

(4) 指導計画

時間	学 習 活 動	学 習 へ の 支 援	評 価 項 目
1	○ 題材全体の見通しをもつ。 ○ 全体を読み内容の大体をつかむ。	○ 説明文の学習の後、実際にニュースを発信する活動をすることを知らせ、読みの目的や意欲をもたせる。 ○ 難しい語句は、辞書で調べるとともに文脈から意味をつかむ学習を行い、文章の内容を正しく理解できるようにする。	(関) ニュースを伝えることに関心をもち、身の回りの出来事から知りたいことや伝えたいことを探そうとしている。
2	○ 根拠について知る。 ○ 課題提示文とまとめの文を読み取る。	○ 「根拠」とは、読み取る際に文章のどこに着目したか、どのように考えて読み取ったかであることを押さえる。 ○ 課題提示文とまとめの文を先に読み取り、そこから「中」の内容を予想することで、筆者の意図や文章全体の構成を的確にとらえられるようにする。	(読) 課題提示文とまとめの文を読み取り、根拠を「読みの『技』カード曰」に書いている。 (言) 文章構成、文末表現などに着目している。
3	【手立てア】 ○ 根拠を考えながら特集作りの過程を読み取る。 ○ 根拠をグループで教え合ったり、全体で確認したりする。	○ 特集作りの過程を読み取った根拠を「読みの『技』カード曰」に書くことで、文章のどこに着目し、どのように考えたのかを明らかにしながら読み取らせるようにする。 ○ 読み取りの根拠をグループで教え合ったり全体で確認したりし、主語と述語の関係や文末表現、題名に関係のある言葉などに着目すればよいことを押さえる。	(関) 自分なりの根拠を考えながら読み取ろうとしている。 (読) 特集作りの過程を読み取り、根拠を「読みの『技』カード曰」に書いている。
4	○ 読み取りの根拠を基に、自分の力で特集作りの過程を読み取り、一覧表にまとめる。	○ 特集作りの過程を一覧表にまとめさせることで、文章全体の構成をつかみやすくさせる。 ○ つまずいている児童には、前時で確認した読み取りの根拠を「読みの『技』カード曰」で確認させたり、必要に応じて友達同士で学び合いの時間を設けたりする。 ○ 第5, 6段落には、特集作りの過程ではなく取材結果が書かれていることを押さえる。	(読) 読み取りの根拠を基に、特集作りの過程を表にまとめている。 (言) 主語と述語の関係や文末表現、題名に関係のある言葉などに着目している。
5	○ 根拠を考えながら報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る。	○ 報道スタッフの工夫や願いなどを読み取った根拠を「読みの『技』カード曰」に書くことで、文章のどこに着目し、どのように考えればよいのか確認させながら読み取らせるようにする。 ○ つまずいている児童には、前時までの活動を振り返らせたり、個別指導をしたりする。	(読) 報道スタッフの工夫や願いなどを読み取り、根拠を「読みの『技』カード曰」に書いている。
6	【手立てイ】 ○ 読み取りの根拠を友達と教え合ったり全体で確認したりする。	○ 前時に「読みの『技』カード曰」に書いた根拠をよく見直させ、自分の考えをしっかりとってグループの友達と根拠を教え合えるようにする。 ○ 読み取りの根拠を友達と教え合ったり、全体で確認したりすることで、自信をもったり、自分では気付かなかった読み取りの根拠に気付いたりできるようにする。	(関) 根拠を友達に教えようとしている。 (読) 友達と教え合った根拠を「読みの『技』カード曰」に書き足している。
7	【手立てイ】 ○ 読み取りの根拠を用い、自分の力で報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る。	○ 報道スタッフの工夫や願いなどを表にまとめさせることで、文章構成をつかみやすくさせる。 ○ つまずいている児童がいたら、「読みの『技』カード曰」を見直させたり、必要に応じてもう一度友達同士で教え合う時間を設けたりする。	(読) 読み取りの根拠を基に自分の力で報道スタッフの工夫や願いなどを表にまとめている。
8	【手立てウ】 ○ 読み取りの根拠を「読みの『技』カード曰」にまとめ、意見や感想を書く。	○ これまで学習した読み取りの根拠を「読みの『技』カード曰」にまとめ、説明的な文章を根拠をもって読み取ることが定着できるようにする。 ○ ここでまとめた読み取りの根拠は、他の文章を読み取るときにも活用できることを押さえる。	(読) 読み取りの根拠を読み取った内容ごとに振り返り、まとめている。

## II 実践の概要

ア 説明的な文章を、どこに着目し、どのように考えて読み取ればよいのか、根拠を明確にしながら読もうとするための、「読みの『技』カード曰」を作成する活動

根拠を考えながら読み取ることが身に付くように、「根拠」とは、「文章のどこに着目して読み取ったのか。」「なぜそのように考えたか。」であることを繰り返し確認し、既習事項である投げかけの文とまとめの文を読み取る際にも、根拠を考えながら読み取る活動を行った(資料1)。

資料1 「ニュース番組作りの現場から」一覧表

⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
当日 放送 キキター	放送 アナウncer	放送 ディレクター	放送 デスク	放送 ディレクター	放送 ディレクター	放送 ディレクター	放送 ディレクター	放送 ディレクター	放送 デスク	放送 デスク	投げかけ ある ニュース番組で 防犯訓練が特集 という 内容を 見ました
まとめの文	放送	放送用 原稿	編集	さっせい	会議	取材結果	取材	会議	会議	特集の 話題	

投げかけの文を読み取る場面では、児童は、文末が「～みましょう」「～か」など、疑問や投げかけの形になっている文を選んでいった。しかし、根拠を考えながら読み取ることには慣れておらず、文章のどこに着目したのか、なぜそのように考えたのかと問われると、とまどう様子が見られた。そこで、前学年までの学習を思い起こさせ、投げかけの文とはどのような文なのか話し合わせたところ、「筆者がこれから述べようとしていること」「考えてほしいことについて呼びかけている文」などの意見が出た。すると、文末表現や題名に使われている「ニュース番組」などの言葉に着目し始め、ほとんどの児童が根拠を考えることができた。また、文章構成に着目し、「投げかけの文」は「はじめ」「中」「終わり」の「はじめ」に書いてあることに気付き、「文章全体のはじめにあるから」という根拠を考えた児童もいた。投げかけの文について話し合いの時間を取ったことで、まとめの文では、投げかけの文の時よりも早く根拠を書くことができた。

特集作りの過程を読み取る場面では、過程とは、特集を作るために報道スタッフが行ってきたことなので、「主語(報道スタッフは)」と「述語(～しました。)」に着目することで読み取っていくことができた。約半数の児童が、主述の関係に着目して読み取っていた。その他に、投げかけの文とまとめの文を読み取る場面で考えたことを生かし、文末表現や題名に関わる言葉を根拠に挙げる児童も多かった。また、読み取りを進めていくうちに、「筆者は、段落の初めに特集作りの過程を述べていることが多い」など、筆者の述べ方に気付く児童も出てきた。

第5、6段落には特集作りの過程が書かれていないのだが、「特集作りの過程は、主語が『報道スタッフ』になっている」という根拠を見付けていたので、ほぼ全員の児童が第5、6段落には取材結果が書かれているということを読み取ることができた。

報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る場面では、事実ではなく、意見や考えを表す言葉に着目して読み取っていく必要がある。ほとんどの児童が、「～と考えて」「工夫」「最も大切なのは」「最も伝えなかったこと」などの言葉に着目して読み取ることができた。

抽出児Aは、投げかけの文やまとめの文を読み取る際に、「はじめ」や「終わり」を探せばよいということや、文末表現に着目すればよいことが分かり、「読みの『技』カード曰」に書くことができていた。特集作りの過程を読み取る場面では、題名にある言葉に着目すればよいことが分かり、さらに読み取りを進めるうちに、過程は段落のはじめに書かれていることを見付け、「読みの『技』カード曰」に書き足していた。そして、報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る場面では、特集作りの過程を読み取る場面での考えを生かし、段落の後半部分に書かれていることが多いということを読み取っていた(資料2)。

抽出児Bは、投げかけの文やまとめの文を見付けることは比較的早くできていたが、根拠を見付けることがなかなかできなかった。「文章のどの言葉からそう考えたのかな。」と言葉かけをしたが、特に意識せずに読み取っているらしく、しばらく迷っていた。その後、「はじめ」と「終わり」に着目するというのに気付き、読み取りを進めるうちに、次第に根拠を考えることができるようになった。「読みの『技』カード曰」への記述も、友達に教えてもらった根拠よりも自分で考えた根拠の方が多くなっていった(資料3)。

資料2 抽出児Aの「読みの『技』カード」

スタッフの工夫や願い・考え	特集作りの過程	まとめの文	投げかけの文	課題
<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>根拠（書目した言葉や文・読み取った理由）</p> <p>・文章の「白取」初の方に</p> <p>あるから</p> <p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>

資料3 抽出児Bの「読みの『技』カード」

スタッフの工夫や願い・考え	特集作りの過程	まとめの文	投げかけの文	課題
<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>	<p>根拠（書目した言葉や文・読み取った理由）</p> <p>・文章の「白取」初の方に</p> <p>あるから</p> <p>・文末に「つきました。かっして</p> <p>いるから、決めた」と書き加</p> <p>え</p> <p>・題名と同じ「ニュース世</p> <p>界」が書かれてあるから、</p> <p>・文末の「白取後」の方に</p> <p>あるから、</p>

このように、読み取りの初めの段階では、根拠がはっきりしないまま何となく読み取っていた児童が、常に根拠を考えながら読み取りを進めていく活動を通して、文章中のどのような言葉に着目して読み取るのか、筆者はどのような述べ方をしているのか、説明的な文章の構成はどのようなになっているのかなどに気付くことができるようになってきた。

これらのことから、説明的な文章を読み取る際に、根拠を考えながら読むことにより、文章の中の着目すべき言葉に気付き、段落の要点や文章構成などを理解できるようになったと考える。

イ 考えを広げたり、より目的や意図に応じた読み取り方を知ったりするための、友達と根拠を教え合う活動

根拠を明確にして説明的な文章を読み取ることへの理解を深めるための、自分の力で読み取りを進める活動

児童はこれまで、根拠を考えながら読み取るということを特別に意識してきていなかったため、学習の初めの段階では、内容を正しく読み取

っていても、なぜ自分がそのように読み取ったのかがはっきりしない児童が多かった。しかし、友達との学び合いを通して、あいまいだった考えが明確になったり考えが広がったりし、次第に根拠を書くことができるようになった児童が多数見られた。

投げかけの文を読み取る場面では、文末表現を根拠に読み取った児童が多かった。しかし、「～みましょう。」「なぜ～なのか。」「～か。」など疑問形や投げかけの形になっている文が複数あり、意見が分かれた。

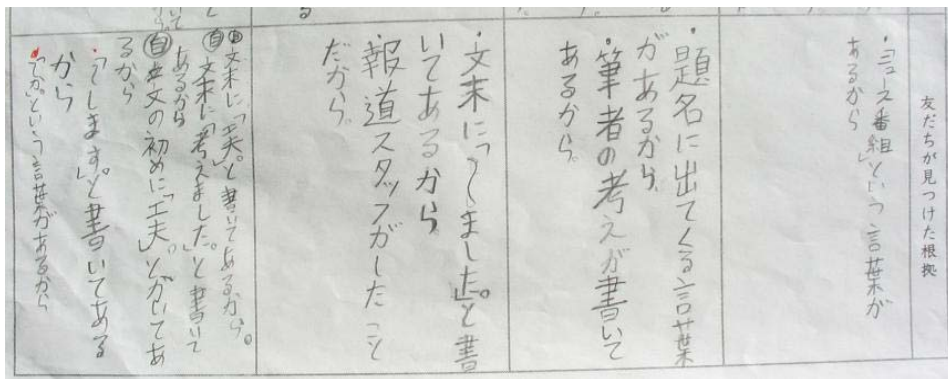
話し合いの中で児童の中から「筆者がこれから述べようとしていることだから、文章全体の初めにある」「題名にある『ニュース番組』という言葉がある」など、文末表現以外の根拠が出てきたことにより、正しい投げかけの文を読み取ることができた。このことから児童は、根拠が明確になっていると、正しく読み取れるということを確認できたと思われる。

このように、読み取りの初めの段階では、根拠がはっきりしないまま何となく読み取っていた児童が、常に根拠を考えながら読み取りを進めていく活動を通して、文章中のどのような言葉に着目して読み取るのか、筆者はどのような述べ方をしているのか、説明的な文章の構成はどのようなになっているのかなどに気付くことができるようになってきた。

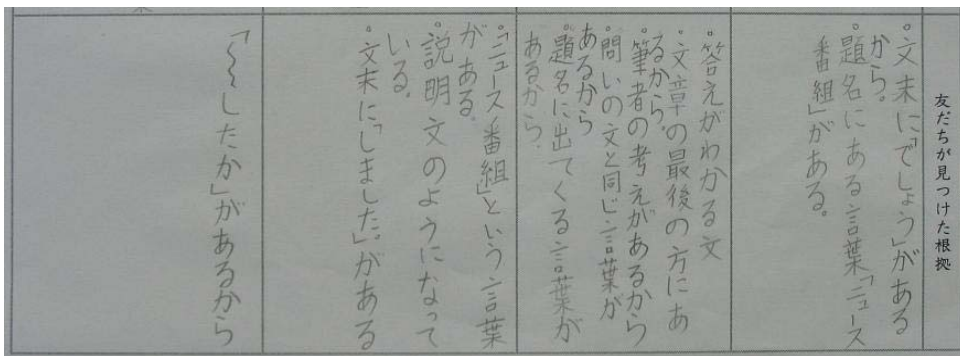
特集作りの過程を読み取る場面でも、グループの中で意見が分かれてしまうことがあった。初めのうちは、司会役の児童がどのように意見をまとめればよいのか分からない様子のグループが多かった。そこで、読み取りの根拠を基に、正しく読み取っているのはどれか、話し合うように助言した。すると、児童の発言ややりとりが活発になり、意見をまとめることができるグループが増えてきた。

特集作りの過程を読み取る場面や報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る場面では、第2段落から第4段落までを根拠を考えながら読み取り、友達との学び合いを通して根拠についての考えを広げたり深めたりした後、残りの段落を自分の力で読み取る活動を行った。第2段落から第4段落の読み取りに時間がかかったり、読み取っても自信がもてなかったりした児童も、友達との学び合いで文章中の手がかりにする言葉や文が分かり、残りの段落は、ほとんどの児童が自分の力で一覧表にまとめることができていた。

資料4 抽出児Aの「友だちが見つけた根拠」



資料5 抽出児Bの「友だちが見つけた根拠」



また、自分の力で読み取る学習の途中に、必要に応じて再度学び合いの時間を設けたことで、特に読み取りが苦手な児童も、文章中の着目すべき言葉を確認することができ、自分の力で一覧表に書き込む様子が見られるようになった。

抽出児Aは、友達との学び合いを通して、投げかけの文やまとめの文を読み取る際には、題名にある言葉に着目すればよいことを学び、「読みの『技』カード④」に書き足していた。特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る場面でも、学び合いを通して、文末表現や考えを表す言葉など、自分が見付けられなかった根拠についての考えを広げることができた(資料4)。

抽出児Bは、投げかけの文やまとめの文を読み取る場面では、根拠がなかなか考えられず、迷っている様子が見られた。特集作りの過程、報道スタッフの工夫や願いなどを読み取る場面では、初めのうちは、自分が考えた根拠よりも友達が考えた根拠の方が多く書いてあった。しかし、友達との学び合いを重ねるうちに自分で考えた根拠の方が多くなってきて、次第に文章中の着目すべき言葉が分かってきた様子が見られた(資料5)。

このように、読み取りの根拠を友達と教え合う活動を行ったことで、それぞれの読み取りの場面で、文章のどこに着目し、どのように考えれば

よいのか、考えを広げたり深めたりすることができた。また、読み取りの根拠を、読み取った内容が妥当であるかを確かめるために役立てることもできた。

児童は、読み取りの根拠を友達と教え合うことにより、場面ごとに、目的や意図に応じた読み取りをすることができるようになった。また、自分で考えたり、友達に教えられたりした読み取りの根拠を用いて、自分の力で読み取りを進める活動を行うことによって、再度根拠を確認することができ、根拠を明らかにして説明的な文章を読み取るという

ことへの理解を深めることができた(資料6)。

資料6 学び合いの様子



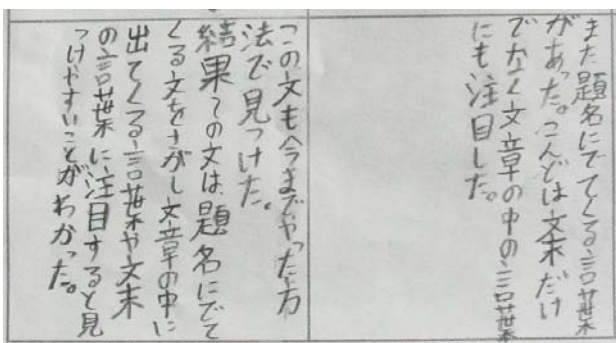
ウ 文章の着目点や、読み取りの際の考え方のポイントを身に付けさせ、説明的な文章を根拠を考えながら読む力をはぐくむための、読み取りの根拠を整理して「読みの『技』カード④」にまとめる活動

児童の感想に「根拠を友達と話し合ったことで、自分で答えを書くことができてよかった」「投げかけの文は文章の初めにあることが分かった」「こ

れからは文章中のキーワードを見つけられるようにしたい」「題名に出てくる言葉は、投げかけの文やまとめの文に関係があることが分かった」「文末を読むと読み取りたいことが見つかることが分かった」「文章の中の着目する言葉が分かると、すぐに答えが見つけれられた」「次の説明文を読むときに生かしていきたい」などの言葉が見られた。

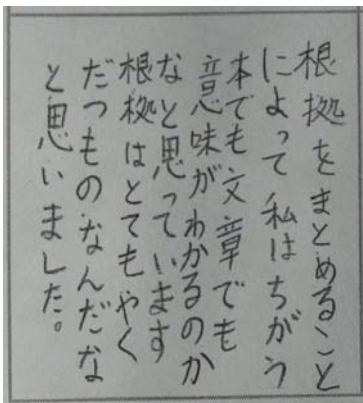
抽出児Aは、「題名にある言葉」や「文末表現」「文章の中に出てくる言葉」に着目することで、読み取りたい内容が見付けやすくなるということに気づき、感想に書いていた(資料7)。

資料7 抽出児Aの「読みの『技』カード」に記述された感想



抽出児Bは、友達と話し合ったことで自分の考えが広がったことに気付くことができた。また、文章を読み取る上で、根拠が役立つものだと理解することができ、根拠をまとめ直す活動を通して、他の説明的な文章を読む自信をもつことができた(資料8)。

資料8 抽出児Bの「読みの『技』カード」に記述された感想



「感想・意見」の欄には、「友達が発表した根拠を覚えておこうと思った。」「これからは、文末や題名にある言葉に気を付けて読んでいこうと

思った。」「説明文を借りて読んで、自力で表にまとめてみたいと思った。」など、次の学習への意欲をもっていることが分かる記述が見られた。

これらのことから、これまでの学習で見付けた読み取りの根拠を整理し「読みの『技』カード」にまとめたことで、児童は文章の着目点や読み取りの際の考え方のポイントを身に付け、根拠を明確にして読み取る力が定着し、説明的な文章を根拠を考えながら読む力をはぐくむことができたと考えられる。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 根拠を明らかにしながら読み取る活動を通して、児童は、文末表現や題名にある言葉、主語と述語の関係などに着目すればよいことに気付くことができた。また、根拠を考えていく中で、筆者の述べ方や文章構成などに気づき、読み取りに生かすことができた。
- 読み取りの根拠を友達と教え合う活動を行ったことで、それぞれの読み取りの場面で、文章のどこに着目して読み取ればよいのかについて考えを広げたり深めたりすることができた。また、読み取りの根拠を用いて、読み取った内容が妥当であるかを確かめるためにも役立てることができた。

#### 2 課題

- 本研究を通して、児童が主体的に読み取りを進めたり、児童同士で有効な学び合いをするためには、考えの根拠を明確にもつこと、そしてそれを言葉で表現することが大切であることが分かった。そこで、さらに、これらの力をはぐくむために、考えを明確にもつためのワークシートの工夫や、児童同士の交流を通して考えを広げたり深めたりするための学習形態の工夫を追求していきたい。

(担当指導主事 村田 伸宏)

#### Web検索キーワード

【国語一小 読むこと 説明的な文章 根拠 「読みの『技』カード」】

〈参考文献〉

- ・須田 実 編著 『国語力をつける発問づくり』 明治図書 (2005)
- ・須田 実 編著 『読む力・考える力を育てるノート指導』 明治図書 (2005)